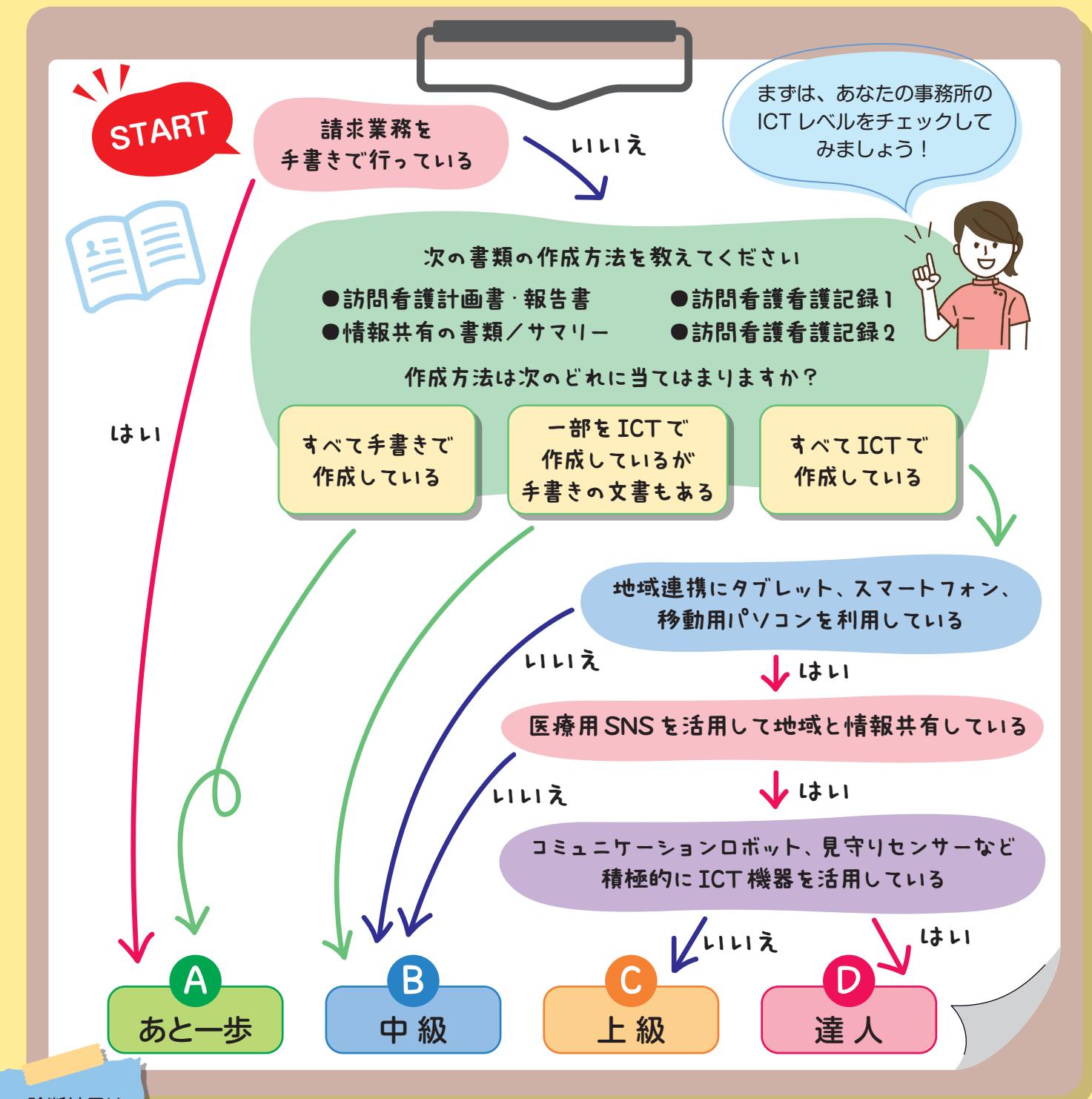


# 訪問看護ステーションの DX・ICT推進のためのサポートブック

あなたの事務所の  
ICTレベルを  
チェック!

## 訪問看護ステーション ICT診断チャート

訪問看護の ICT は訪問看護記録の作業時間の短縮や外出先での利便性、報告書等のデータ管理の利便性などに活用されています。また、地域の他の事業所との連携や利用者とのコミュニケーション、質の向上など、作業の効率化にも役立つ ICT を取り入れていますか？



診断結果は  
次ページで！

あなたの訪問看護ステーションはどのタイプ？

## 診断結果

A

あと一歩



あなたの訪問看護ステーションは  
**ICT の活用まであと一歩の事業所です。**

請求ソフトなどの基本的な ICT 技術を導入することで効率化が目指せます。

▼ステップアップするには

請求業務などの事務作業、訪問看護記録などの記録業務を ICT 化してみましょう。手書きから ICT に変えることで、効率化やミスの低減に取り組むことができます。

B

中級



あなたの訪問看護ステーションは  
**ICT を平均的に活用できている事業所です。**

事業所内での ICT の活用ができている事業所です。ICT 化されていない書類を一歩ずつして効率化に向けて取り組みます。

▼ステップアップするには

事業所内の ICT 化ができていない記録・文書などがあれば、効率化に向けて取り組みましょう。タブレットや医療用 SNS を地域連携に活用していくことで、更なる効率化や質の向上を目指すことができます。

C

上級



あなたの訪問看護ステーションは  
**ICT を上手に活用している事業所です。**

事業所内・地域連携などの ICT サービスを活用できている事業所です。使い方の工夫や新しい ICT サービスを導入することで、更なる業務の効率化や質の向上に取り組むことができます。

▼ステップアップするには

訪問看護スケジュールのスプレットシートの活用（※ 4ページ）などの ICT サービスの活用の工夫や、最新の ICT 技術の導入で更なる業務の効率化や質の向上に取り組むことができます。

D

達人



あなたの訪問看護ステーションは  
**ICT を積極的に活用している事業所です。**

その取り組みやノウハウを、ぜひ他の事務所にも教えてあげてください！ データ化された実績は事業計画に活用することもできます。

▼ステップアップするには

地域での ICT 化に協力することで、自ステーションを含めた ICT による連携が強化されます。また地域で同じ ICT サービス等を使用することで、利用方法が深まっていき、一層の質の向上に取り組んでいくことが期待されます。

全国訪問看護事業協会が作成した「事業所自己評価 Web システム」をぜひご活用ください。

## ●訪問看護ステーション業務ソフト

訪問看護ステーションにおける医療保険と介護保険に基づく訪問看護に対応しており、利用者情報の管理、訪問実績管理から報酬請求処理さらに各種報告書の作成を行うことができます。

### [訪問業務管理]

主な機能：スケジュール、訪問記録、利用者情報

ここが便利！

スマホやタブレットでその場で記録、スケジュールも共有可。  
AIによる訪問予定やルート作成で効率化



### [請求・レセプト管理]

主な機能：介護・医療保険請求、実績管理

ここが便利！

訪問実績から請求書を自動作成、月末処理がスムーズ



### [AIによる 報告書等の作成]

主な機能：記録の要約、文書の自動作成

ここが便利！

訪問看護記録から報告書などの文書を自動作成



### [統計・分析]

主な機能：稼働率、訪問回数、売上分析など

ここが便利！

経営判断に役立つデータを可視化



業務支援システムは  
さまざまなサポートを  
してくれます



### [情報共有・連携]

主な機能：チャット、引き継ぎ、医師との連携

ここが便利！

主治医やケアマネ、家族ともセキュアにやりとりできる



### [教育・サポート機能]

主な機能：マニュアル、チャットサポート、動画教材

ここが便利！

操作に不安がある人への支援が充実しているものも多い



### [セキュリティ・ 権限管理]

主な機能：アクセス制限、クラウド保管

ここが便利！

情報漏洩対策や多拠点運営にも対応

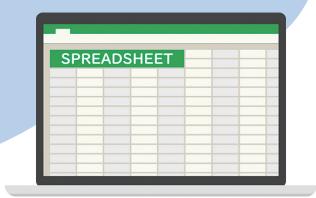


## 2 ICTを活用した訪問看護ステーションの具体例

ICTを活用することにより、引き継ぎや医師への報告などの業務を効率的に進めることができます。

### スプレットシートやエクセルなどのオンライン情報共有

スプレットシートで作成したシフトや訪問看護予定をスタッフ全員でオンライン共有することで、確認が簡単にでき、変更などもリアルタイムに反映できます。また必要なガイドラインや手引きのタイトルとURLをリストにしてオンラインで共有することで、必要な情報をいつでも確認できます。



### 電話転送機能等

夜間のオンコール対応等に電話転送機能を利用することで、一つの電話番号から自動で担当者の持つ電話機に転送することができます。夜間対応のスマートフォンを直接手渡しする必要がなくなります。またひと月分の転送予定を設定することで、時間になると自動で転送先が切り替わっていくサービスやスマートフォンから電話発信する場合に、相手に固定電話番号（事業所の電話番号など）を表示させるサービスもあります。

### 全国訪問看護事業協会 事業所「自己評価WEBシステム」\*

自己評価は看護業務の質を向上させるために非常に重要です。自己評価WEBシステムを利用することで、データが蓄積され、評価を経年でみることができます。また全国平均、地域での平均、似た特徴を持つステーションとの平均との比較ができ、業務の改善点や課題を明確にし、質の向上に取り組むことができます。

\*ログインが必要です

### ポータブルエコー

タブレットサイズで持ち運びも簡単なので、利用者の身体情報をリアルタイムで診ることができます。ネットに接続して見ることも可能なので、データの共有がスムーズです。



### スマートスピーカー

AIによるアシスタント機能が備わったスピーカーで、声だけで電話や撮影など幅広い操作を行えます。遠隔地の利用者への電話連絡、映像による身体確認などができます。

### 動画の伝言板など

支援者から利用者に動画で必要事項を伝えることができ、聞こえづらい方には字幕も表示できます。服薬確認などのメッセージを、時間を指定して送信することができます。利用者が設置してあるタブレットで回答できたりするサービスもあります。



### 電子サイン

訪問看護の契約書にタブレットを用いた電子サインを利用してすることで、ペーパーレス化・発送業務の削減等ができます。

## 見守りカメラ・センサー

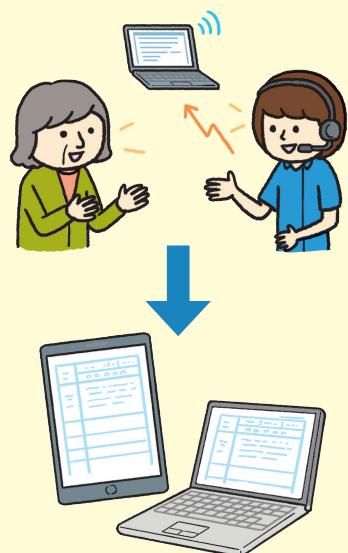
利用者宅に見守りカメラを設置することにより、離れた場所からも、利用者の体調をリアルタイムにタブレットやスマートフォンなどで確認できます。またベッド等のセンサーでは利用者の移動などを感知することもできます。



## 遠隔死亡診断

医師が患者と直接対面せずにICTを利用して死亡診断を行う方法。遠隔地の利用者で医師が立ち会うことが難しい状況において、死亡診断書を発行する手段として活用されます。

## AIの活用の具体例 (訪問看護記録2から訪問看護報告書作成)



### 訪問看護記録2

訪問看護師が利用者宅でケアを提供する際の会話やバイタル情報等からAIが訪問看護記録2を作成



### 訪問看護報告書

訪問看護記録2等の内容からAIが訪問看護報告書を作成



### ポイント

訪問看護での会話やバイタルのデータを訪問看護記録2にAIが要約し、訪問看護2の内容をAIが訪問看護報告書に過去の記録等も参照し、要約します。

### ●現在のAIのレベル

このようなテキストを生成するAIの機能は飛躍的に高機能化していますが、一般的にもまだ文書に誤りがある、要約が正しくない場合等があります。高い専門性が必要とされる看護の分野では、看護師がチェック・修正を適切に行うことが必要とされます。今後の更なる発展に期待が持たれている分野です。

# 3 先進的なサービス

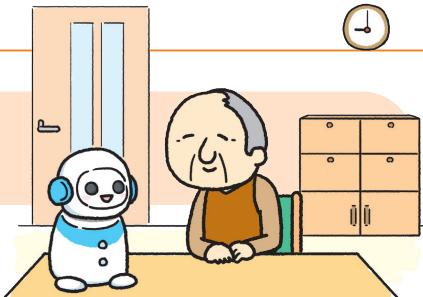
訪問看護ステーションにおけるICTの利用状況と課題を把握し、効率的にICTを活用していくための支援の方策を検討。訪問看護ステーションにおけるICTの利用状況と課題を把握し、効率的にICTを活用していくための支援の方策を検討。

## コミュニケーションロボット

利用者の生活を見守るパートナーのような役割

### ●概要

コミュニケーションロボットは、日々の声掛けで、服薬、体温や血圧の測定を促します。また機器にデータを送信する機能を持たせることで、測定結果や異変の検出にも活用できます。コミュニケーションロボットはおもに会話や動きにより人と交流を持つ目的で開発されたロボットで、産業用ロボットと違い、かわいらしさや親しみやすさを重視したデザインで、利用者の孤独感の解消にもつながります。



### 活用のポイント

- ・セルフケア能力の向上
- ・日々の生活の見守り
- ・異常値の検出

## iPad Pro の LiDAR センサーを活用した在宅環境の三次元可視化システム

転倒リスクアセスメントを効率化する環境評価ツール

### ●システムの概要

iPad Pro や iPhone 12 Pro 以降に搭載された LiDAR センサーを使用して、**利用者宅の環境を 3D スキャン**。光を使った精密な測定技術により、段差・散乱物・手すりの位置などを自動的に認識し、転倒リスクを客観的に評価します。見落としがちな危険箇所も確実に発見でき、新人でもベテランと同じ視点でアセスメントが可能です。



動画はこちら



### 訪問看護での活用場面

- ・初回訪問時：居室全体の 3D マップ作成
- ・リスク評価：段差の高さをミリ単位で測定
- ・情報共有：カンファレンスで 3D 画像を活用
- ・家族説明：視覚的な資料で改善提案
- ・経時変化：定期スキャンで環境変化を把握
- ・福祉用具：設置場所の最適化提案

### 簡単3ステップで使える

- ①スキャン：iPad/iPhone を持って室内をゆっくり歩く
- ②分析：撮影したデータを 3DCG 化
- ③共有：3 次元可視化した在宅療養空間をチーム全体で確認

## 遠隔でのサポート

AR（拡張現実）を用いた訪問先でのサポート

### ●概要

看護師や医師が、訪問看護ステーションから離れたところにある利用者宅等の様子を見ながら、現場の看護師に指示や指導ができます。訪問先の看護師等はスマートグラスなどの端末で、サポート役の看護師の画像・音声での指示を受けることができます。

AR空間（拡張現実）には、手順書や動画を表示して確認でき、ハンズフリーで利用者のケア・支援を行うことができます。またサポート側がAR空間に表示した線や画像などを見るすることもできます。（例：サポート側が褥瘡の壊死部分をAR空間で線で指し示す等）



### 活用のポイント

- ・サポート側と受ける側が同じ画像等を見ることができる
- ・AR空間に手順書や動画などを表示して確認できる
- ・AR空間上に線を引く、書き込むなどのサポートを行うことができる。

## VR・AIを活用したデジタル訪問看護シミュレーション

新人訪問看護師の実践的スキル習得を支援する革新的教育システム

### ●システムの概要

VRゴーグルを装着して仮想空間に入ると、AIによって制御された模擬利用者が登場します。様々な疾患・性格・生活背景を持つ利用者として対話し、実際の訪問看護場面をリアルに再現。**安全な環境で何度も練習できる**ため、新人看護師は失敗を恐れずに、自分のペースで実践的なスキルを身につけられます。



### 導入のメリット

新人看護師：実際の利用者に負担をかけずに経験を積める  
教育担当者：指導負担が軽減し、客観的な評価が可能  
施設全体：研修期間短縮を実現

#### 練習できるシナリオ

- ・初回訪問時のコミュニケーション
- ・急変時の判断と医師への報告
- ・服薬指導とコンプライアンス確認
- ・ご家族との関わり方・介護指導
- ・多職種連携とケアマネとの調整



### 活用のポイント

- ・段階的学習：難易度を調整しながら少しづつスキルアップ
- ・振り返り機能：先輩看護師と一緒に対応を振り返り、改善点を確認
- ・標準化された教育：全員が同じ質の高い教育を受けられる

# 4 ICT活用の注意 情報セキュリティ

訪問看護ステーションで取り扱う医療情報は、病歴等の機微性の高い情報を含む患者の個人情報です。そのため、適切な管理、慎重な取扱い、また医療情報が活用できる状態に置かれることが重要です。次のような脅威が報告されていますので、注意しましょう。

## 情報セキュリティ 10大脅威 2025 [組織]

順位	「組織」向け脅威	初選出年	10大脅威での取り扱い
1	ランサムウェアによる被害 <sup>※1</sup>	2016年	9年連続9回目
2	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃 <sup>※2</sup>	2019年	6年連続6回目
3	内部不正による情報漏えい等の被害	2016年	9年連続9回目
4	標的型攻撃による機密情報の窃取	2016年	9年連続9回目
5	修正プログラムの公開前を狙う攻撃（ゼロデイ攻撃）	2022年	3年連続3回目
6	不注意による情報漏えい等の被害	2016年	6年連続7回目
7	脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加	2016年	4年連続7回目
8	ビジネスメール詐欺による金銭被害	2018年	7年連続7回目
9	テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃	2021年	4年連続4回目
10	犯罪のビジネス化（アンダーグラウンドサービス）	2017年	2年連続4回目

独立行政法人情報処理推進機構、「情報セキュリティ 10大脅威 2025」、<https://www.ipa.go.jp/security/10threats/10threats2024.html>

※ 1：近年最も被害が大きいマルウェア（パソコンウイルス）です。感染するとデータを暗号化してアクセスできないようにして、データを人質に金銭を要求されます。

※ 2：取引先やシステム運用等の委託先事業者などから、不正アクセスやマルウェアの侵入を許す場合となります。ランサムウェアに感染する経路としても要注意となります。

このような脅威が報告されています！



- ① 訪問看護ステーションでは名前・住所・病歴など、大切な個人情報を取り扱っています。不正に見られたり漏れたりしないように守る必要があります。
- ② 訪問看護業務支援のシステムは正常に動く必要があります。動かないことで、利用者情報が確認できず、薬の間違いなどのミスが発生する可能性があります。
- ③ ウィルスや不正アクセスなどのサイバー攻撃のリスクが増加しているため、対策が必要です。

### 対策方法

医療システムの  
安全管理に関するガイドライン  
「第6.0版（令和5年5月）」  
【厚生労働省】を活用しよう！

訪問看護ステーションを含む医療システムの安全管理については、ガイドラインが示されています。

[https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000516275\\_00006.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000516275_00006.html)



## ●ガイドラインの基本ポイント

1. アクセス管理
  - ・誰がどの情報を見たり変更したりできるかをしっかり制限。
  - ・たとえば、医師は診療記録を見れるけど、事務スタッフは一部だけ、など。
2. IDとパスワードの管理
  - ・パスワードは強力なものを使い、定期的に変更。
  - ・IDやパスワードの使い回しは禁止。
3. バックアップの実施
  - ・システムトラブルや災害時のために、データのコピーを定期的に保存。
  - ・重要データは複数の場所に保存すると安心。
4. 定期的な点検と教育
  - ・システムの点検（アップデートやセキュリティチェック）を定期的に行う。
  - ・職員への教育・研修も重要。
5. インシデント対応
  - ・何か問題が起きた時（例：情報漏えい）、どう対処するか事前に計画を立てておく。

# 5

## 訪問看護ステーションのICT利用状況

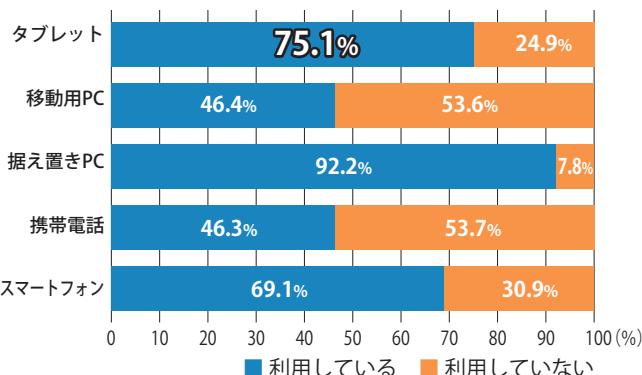
「訪問看護ステーションのICTについてのアンケート調査」より

当協会が2023年7月に実施した「訪問看護ステーションのICTについてのアンケート調査」結果から、訪問看護ステーションICTの利用状況を紹介します。

### 利用状況 1

タブレットは75.1%の事業所で利用されています。

訪問看護ステーションで利用しているICT機器等  
n=2,260



### 利用状況 2

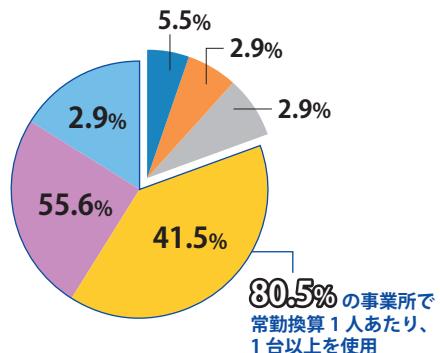
モバイル機器は80.5%の事業所で

1人1台以上が用意・使用されています。(看護職)

看護職の常勤換算数1人あたりの訪問先等での使用が想定されるICT機器(スマートフォン、タブレット、移動用PC)の台数  
n=2,259

平均値	1.9
中央値	1.7
標準偏差	1.4
四分位数	1.4

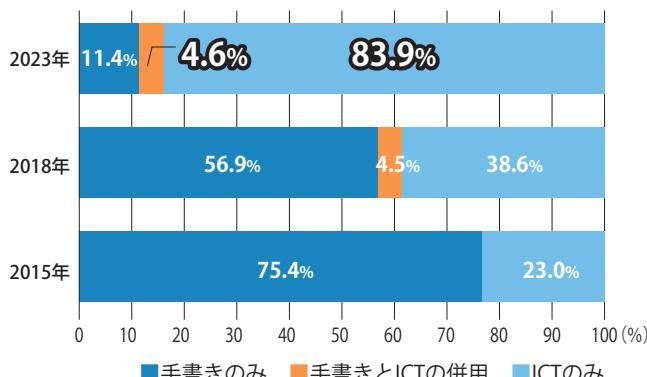
- 0
- 0.1以上0.5未満
- 0.5以上1未満
- 1以上2未満
- 2以上3未満
- 3以上



### 利用状況 3

訪問看護記録2のICT利用は88.5%。  
8年で65.5%増加しています。

訪問看護記録2の作成・管理において使用する機器等(経年)



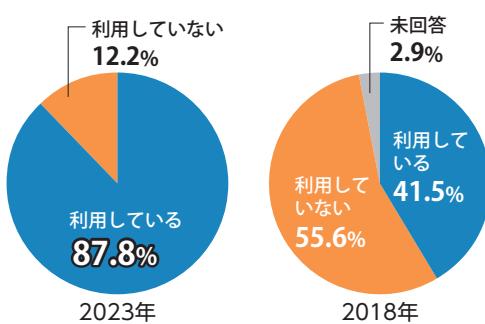
2018年: 全国訪問看護事業協会、訪問看護ステーションにおけるICTの普及状況に関するアンケート、2018年7月

2015年: 全国訪問看護事業協会、平成28年診療報酬改定に関するアンケート調査「小児訪問看護・ICTに関するアンケート」、2015年6月11日

### 利用状況 4

他事業所との連携には87.8%の事業所がICTを利用しています。

他事業所との連携方法について(2023年調査と2018年調査の比較)



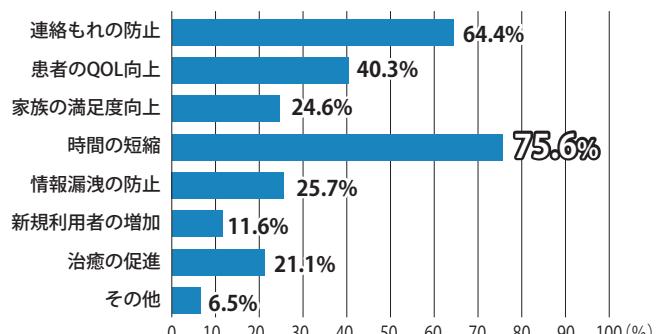
2018年: 全国訪問看護事業協会、訪問看護ステーションにおけるICTの普及状況に関するアンケート、2018年7月

### 利用状況 5

地域連携にICTを使うと75.6%の事業所で時間短縮につながりました。

地域連携にICTを利用している場合の効果について(複数回答)

n=2,233



# 6 DX・ICT用語集

用語を少し知っておくと DX・ICT の理解・導入・利用がスムーズになります。

## ICT (Information and Communication Technology)

情報通信技術のこと。コンピューターを利用して、人と人、人とモノのコミュニケーションを図ること。訪問看護で ICT 化という場合は、訪問看護の事務業務や事業所情報の管理等のための訪問看護業務ソフト・サービス等の導入を指すことが多いです。

## IT と ICT は何が違う？

一般的な使われ方としては、ほとんど違いがなく、IT と呼ばれていたものが ICT と呼ばれるようになりました。

## AI(人工知能)とは？

コンピューターが人間のように学び、問題解決していく技術です。文書作成の AI は広く用いられるようになってきており、自動運転、医療画像診断などの分野でも活用が期待されています。

## DX (Digital Transformation)

デジタル技術によって、ビジネスや社会、生活の形・スタイルを変えることです。ICT 化はデジタル技術の導入による業務効率化などを指すことが多いですが、DX はデジタル技術によって組織そのもの変革を目指す取り組みをさします。

## IoT (Internet of Things)

モノのインターネットとも呼ばれます。モノがインターネット経由で通信する。例えば体温計がインターネットにつながって測定結果をパソコンに送るなどの利用が考えられます。

## デバイスとは？

機器のことです。パソコン・タブレット・スマートフォンのことを呼ぶことが多いです。広い意味ではプリンターやスピーカー、モデム、USB メモリなども含みます。



## ベンダーとは？

サービスを提供している事業者等を指します。訪問看護業務システムの提供会社やアプリの提供会社などが呼ばれます。



# 7 補助金について

訪問看護ステーションのICT化を進める場合に、補助金等を使うことで負担を抑えられる場合があります。補助金等は医療・介護事業に限定したものや、医療・介護事業に対象を限らないものがあります。年度によって実施される補助金等が変わりますので、情報収集が重要です。

## 2025年度補助金例

### ●介護テクノロジー導入支援事業【厚生労働省】

介護事業者がテクノロジーを導入する際の経費を補助し、生産性向上による働きやすい職場環境の実現を推進

- 補助対象：ICT機器、介護ロボット、パッケージ型導入、その他
- 補助率：1/4～10/10
- 補助上限額：数百万円程度（具体的な金額は年度や事業内容によって異なる）
- 補助対象：業務効率化（介護記録の電子化、業務支援ソフトの導入）、サービスの質向上（見守りセンサー、音声認識システムの導入）、人手不足対策（介護ロボット、AIによる支援システムの導入）

案内掲載ページは  
こちらをチェック



### ●医療施設等経営強化緊急支援事業（緊急時支援パッケージ）【厚生労働省】

補助内容：「ベースアップ評価料」を届け出ていること

補助額：訪問看護ステーション 18万円／施設

補助対象：ICT機器の導入（例：タブレット、インカム、WEB会議設備、床ふきロボット、監視カメラ等の業務効率化に資する設備の導入）、スタッフの追加雇用（例：事務補助）、処遇改善を目的とした、既に雇用している職員の賃金改善

案内掲載ページは  
こちらをチェック



### ●IT導入補助金2025【中小企業庁】

IT導入支援事業者とは、生産性向上を目指す中小企業・小規模事業者等に対してITツールを導入し、補助事業を円滑に遂行するための支援を行う事業者です。事務局に登録申請を行い、事務局および外部審査委員会による審査の結果、採択される必要があります。

- 活用イメージ：ITツールを導入して、業務効率化やDXを推進
- 補助対象経費：ソフトウェア購入費、クラウド利用料（最大2年分）、導入関連費（保守サポートやマニュアル作成等の費用に加えて、IT活用の定着を促す導入後の“活用支援”も対象化）
- 補助額：5万円～450万円
- 補助率：1/2～2/3

案内掲載ページは  
こちらをチェック



---

訪問看護ステーションの  
DX・ICT推進のためのサポートブック

---

発行日 令和7年12月  
発行 一般社団法人全国訪問看護事業協会  
デザイン 株式会社イオック

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目3番12号  
壱丁目参番館401

TEL 03-3351-5898 FAX 03-3351-5938